

危険物新聞

第278号

発行所 大阪府危険物品協会連合会
 発行人 川井清治郎
 大阪市西区西長堀北通1丁目
 四つ橋ビル8階
 TEL (531) 9717. 5910
 定価 1部 30円

危険物政令改正 許可手数料等値上げ

危険物の規制に関する政令の一部及び消防法施行令の一部が次のとおり、2月1日付で改正された。

■完成検査前検査（法第11条の二①関係）

完成検査を行なう前に行なう検査（従前行なわれていたタンクの水圧検査等）を完成検査前検査といい、この検査を受けなければならない製造所等、検査を行なう工事の工程及び検査を受けるべき事項が定められていた。

完成検査前検査は、基礎・地盤検査、洩れ・変形検査、溶接部検査に分けられる。

■保安検査（法第14条の三②関係）

1万キロリットル以上の屋外タンク、並びに特定の移送取扱所は、不当沈下その他の事由が生じたときは、保安に関する検査を受けなければならない。

■危険物保安技術協会への委託（法第11条の三関係）

屋外タンクの設置又は変更の許可、完成検査前検査及び保安に関する検査に係る審査について、危険物保安技術協会に委託できる範囲が定められた。

■特定屋外タンクの地盤等強化（法第11条関係）

特定屋外タンク（1千キロリットル以上）の基礎、地盤、タンク本体の溶接部について基準が強化された。

■各種手数料の改定（政令第40条関係）

製造所等の許可、検査手数料（2月15日から）をはじめ、取扱者試験受験料等（4月1日から）が50%～100%値上げされた。

■タンク検査員の資格（消、施行令第5条の二関係）

タンクの検査業務に従事する危険物保安検査技術協会の資格が、消防法施行令で制定された。

春の全国火災予防運動 2月28日～3月13日

春の全国火災予防運動は2月28日から3月13日まで実施される。

全国統一標語は「火災は人災防ぐはあなた」

大阪市は「あなどるな煙の速さ火のこわさ」

春はとくに車両防火に重点がおかれ、危険物運搬車両の街頭検査や、鉄道関係との協同で交通機関での防火、避難訓練が行われる。

大阪府で取扱者試験 甲と乙4、近大で

大阪府では3月13日、近畿大学で、甲種と乙種第4類の試験を実施する。

合格発表は4月5日で、免状交付は5月10日の予定。



乙4の試験に備えて

乙種
4類 模擬問題

特集

基礎物理化学

問題1 次の記述のうち、物理変化はどれか

- (1) 軽油を加熱したら蒸発した
- (2) エチルアルコールが燃えて青い炎をだした
- (3) カーバイトに水を加えたらアセチレンガスが発生した
- (4) 塩素酸カリウムを加熱したら酸素が発生した
- (5) 亜鉛に希硫酸を加えたら水素が発生した

問題2 次の記述のうち、正しいものはどれか

- (1) 銀の熱伝導率は、水銀より小さい
- (2) ガソリンの比熱は、水より大きい
- (3) 空気の対流現象は空気を冷却したときのみおこる
- (4) 銀の線膨張率は、体膨張率より大きい
- (5) おがくずの熱伝導率は、空気より大きい

問題3 35°Cのナタネ油260gに3,250calの熱量をあたえたら、ナタネ油の温度は何度になるか。ただし、ナタネ油の比熱は0.5cal/°C・gとする

- (1) 25°C
- (2) 50°C
- (3) 60°C
- (4) 75°C
- (5) 115°C

問題4 $C(\text{無定形}) + O_2(\text{気体}) = CO_2(\text{気体}) + 97.8\text{Kcal}$

この熱化学方程式から考えて、次の記述のうち誤っているものはどれか

- (1) 生成する二酸化炭素の体積は酸素の体積の2倍である
- (2) 二酸化炭素の生成熱は97.8Kcalである
- (3) 生成した二酸化炭素の体積は標準状態で約22.4ℓである
- (4) この反応は発熱反応である
- (5) 炭素の燃焼熱は97.8Kcalである

問題5 水素の爆発限界を4~75%とすると、次の記述のうち誤っているものはどれか

- (1) 水素2ℓと空気98ℓの混合気は燃焼しない
- (2) 水素4ℓと空気96ℓの混合気は燃焼しない
- (3) 水素25ℓと空気75ℓの混合気は燃焼する
- (4) 水素50ℓと空気50ℓの混合気は燃焼する
- (5) 水素75ℓと空気25ℓの混合気は燃焼する

問題6 次のうち正しいものはどれか

- (1) 沸点は外圧が高くなれば低くなる
- (2) 水の沸点は外圧の変化に関係なく100°Cである
- (3) 沸点は外圧が低くなれば低くなる
- (4) 蒸気圧の大きいもの程高い温度で沸とうする
- (5) 可燃性液体の沸点はすべて100°C以下である

問題7 燃焼を容易にする条件のうち、誤っているものはどれか

- (1) 温度が高いこと
- (2) 熱伝導率が大きいこと
- (3) 酸素と化合しやすいこと
- (4) 粒子が小さいこと
- (5) 空気との接触がよいこと

問題8 消火法の主な効果について、次のうち誤っているものはどれか

- (1) アルコールランプにふたをして消した——窒息効果
- (2) 木造火災に注水して消火した——冷却効果
- (3) 炭火を火消しつぼに入れて消した——窒息効果
- (4) 石油ストーブのバルブをしめて消した——除去効果
- (5) 灯油火災にハロゲン化消火剤を使用
して消火した——冷去効果

問題9 次の消火剤のうち、主として窒息効果があり、かつ、電気火災に適用できるものの組み合わせはどれか

- (1) 二酸化炭素と耐アルコール泡
- (2) 二酸化炭素と臭化塩化メタン
- (3) 化学泡とABC消火粉末
- (4) 化学泡と棒状の強化液
- (5) 空気泡と酸アルカリ消火剤

問題10 消火剤、消火器及び消火装置に関する次の記述のうち、誤っているものはどれか

- (1) 酸アルカリ消火器の薬剤は、硫酸と炭酸水素ナトリウム水が主成分である
- (2) 化学泡消火器の薬剤は炭酸水素ナトリウム(重曹)水と硫酸アルミニウム水が主成分で、化学変化によって二酸化炭素、水酸アルミニウム、硫酸ナトリウム溶液になる。
- (3) 泡消火器の薬剤は、期間がたつと発泡率が低下するので交換の必要がある
- (4) フォーマイト消火装置は、冬期気温の低下につれて反応速度が低下し、泡ができにくくなる。
- (5) 臭化塩化メタンは、ハロゲン元素の負触媒作用によって消火効果が大きい、その蒸気密度は1より小である

各論

問題11 各類ごとの危険物の特性について、次の記述のう

ち誤っているものはどれか

- (1) 第1類危険物は、すべて強酸化剤である
- (2) 第2類危険物は、すべて還元性が強い
- (3) 第3類危険物は、すべて水と作用して発火する
- (4) 第5類危険物は、すべて酸素を含む可燃物である
- (5) 第6類危険物は、すべて無機化合物の強酸である

問題12 エーテルの性状について、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 比重は1より小さく、水にわずかに溶ける
- (2) 引火点は約-4℃である
- (3) 着火温度は約180℃である
- (4) 爆発限界は約1.9~48%である
- (5) 直射日光に長時間さらすと過酸化物を生成する

問題13 ガソリンの性状について、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 引火点は約-20~-40℃である
- (2) 着火温度は約300℃である
- (3) 多くの炭化水素の混合物である
- (4) 爆発限界は約1~45%である
- (5) 蒸気密度は空気の3~4倍である

問題14 灯油の性質について、次のうち正しいものはどれか

- (1) 着火温度は約500℃である
- (2) 単一な化合物である
- (3) 引火点は約30~65℃である
- (4) 比重は1より小さく、水に溶けやすい
- (5) 蒸気密度は約1.2である

問題15 酸化プロピレン、クロルベンゾール及びメチルアルコールの引火点の組合わせについて、次のうち正しいものはどれか

引火点

低←—————→高

- (1) 酸化プロピレン—メチルアルコール—クロルベンゾール
- (2) クロルベンゾール—酸化プロピレン—メチルアルコール
- (3) メチルアルコール—酸化プロピレン—クロルベンゾール
- (4) 酸化プロピレン—クロルベンゾール—メチルアルコール
- (5) クロルベンゾール—メチルアルコール—酸化プロピレン

問題16 ベンゾール、軽油及びアセトアルデヒドの着火温度の比較について、次の組合わせのうち正しいものはどれか。

着火温度

低←—————→高

- (1) ベンゾール—アセトアルデヒド—軽油
- (2) アセトアルデヒド—ベンゾール—軽油
- (3) 軽油—アセトアルデヒド—ベンゾール
- (4) アセトアルデヒド—軽油—ベンゾール
- (5) 軽油—ベンゾール—アセトアルデヒド

問題17 二硫化炭素の性質について、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 比重は1.26である
- (2) 引火点は-30℃である
- (3) 着火温度は約100℃である
- (4) 爆発限界は1.4~7.9%である
- (5) 蒸気は有毒である

問題18 次に示す危険物のうち、水によく溶けるものはいくつあるか

氷さく酸、トルオール、アセトン、アミニ油、二硫化炭素、エチルアルコール、エーテル、プロピルアルコール、キシロール

- (1) 3つ
- (2) 4つ
- (3) 5つ
- (4) 6つ
- (5) 7つ

問題19 次に示した第4類危険物とそれに適した消火剤の組合せのうち、適当でないものはどれか

- (1) トルオール—消火粉末
- (2) 氷さく酸—耐アルコール泡
- (3) アセトン—エア・フォーム
- (4) ガソリン—ハロゲン化物
- (5) エーテル—二酸化炭素

問題20 危険物の性質について誤っているものはどれか

- (1) キシロールは3つの異性体がある
- (2) アセトアルデヒドは沸点が低く蒸発しやすい
- (3) ベンゾールの蒸気は有毒である
- (4) ピリジンは水と任意の割合で混合する
- (5) 動植物油のうち不乾性油は自然発火しやすい

危険物関係法令

問題21 保安に関する講習について、次のうち正しいものはどれか

- (1) 危険物保安監督者は、5年以内に講習を受けること
- (2) 甲種取扱者は5年以内に、乙種取扱者は3年以内に、丙種取扱者は1年以内に講習を受けること
- (3) 危険物取扱者は、一定期間内に講習を受け、免状の更新を受けること
- (4) 危険物取扱作業に従事する取扱者は、一定期間内に

講習を受けること

- (5) 危険物取扱者は、免状交付日から5年以内に講習を受けること

問題22 次の記述のうち、正しいものはどれか。

- (1) 危険物は危険性の高い順に、第1類から第6類まで分類されている
- (2) 甲種取扱者の取扱うことのできるものが甲種危険物で、それ以外のもが乙種危険物である。
- (3) 第2石油類は甲種危険物で、屋外貯蔵所に貯蔵することはできない
- (4) 危険物は甲種危険物と乙種危険物に区分されている
- (5) 指定数量の10倍以上のもが甲種危険物で、10倍未満のもが乙種危険物である

問題23 手続きについて次のうち誤っているものはどれか

- (1) 製造所等の譲渡をうけた者は遅滞なく市町村長等に届出ること
- (2) 危険物保安監督者を定めたときは、遅滞なく市町村長等に届出ること
- (3) 製造所等が完成したときは、市町村長等の完成検査をうけること
- (4) 製造所等の危険物の種類を変更しようとするときは、10日前までに、市町村長等に届出ること
- (5) 製造所等の位置構造設備を変更したときは、市町村長等の許可をうけること

問題24 20ℓ入り軽油けい行缶50本と、200ℓ入り重油ドラム缶10本を倉庫に貯蔵しているとき、20ℓ入りガソリンけい行缶をあと何本貯蔵すると指定数量の6倍になるか

- (1)12本 (2)15本 (3)16本 (4)20本 (5)25本

問題25 消防法を違反した場合、これに対する命令で誤っているものはどれか

- (1) 無許可で製造所等の設備を変更したとき→使用停止命令
- (2) 完成検査をうけないで製造所等を使用したとき→

完成検査受検命令

- (3) 危険物の貯蔵基準に違反したとき→貯蔵基準の遵守命令
- (4) 製造所等が構造設備基準に不適合のとき→修理改造命令
- (5) 危険物取扱者がその責務を怠ったとき→免状の返納命令

問題26 危険物製造所の標識、掲示板について、次のうち正しいものはどれか

- (1) 標識の大きさは巾25センチ、長さ50センチ以上とすること
- (2) 標識は赤地白文字とすること
- (3) 管理者の氏名を掲示すること
- (4) 危険物保安監督者の氏名を掲示すること
- (5) 危険物の種類を問わず赤地白文字で火気厳禁を掲示すること

問題27 危険物取扱者免状の交付、書替え、再交付について、正しいものはどれか

- (1) 免状は市町村長等が交付する
- (2) 紛失すると再交付をうけることはできない
- (3) 本籍を変更したときは、居住地、又は勤務地を管轄する都道府県知事に書替えを申請すること
- (4) 居住地を変更したときは、居住地を管轄する市町村長に書替えを申請すること
- (5) 勤務先を変更したときは、所轄消防署長に届出ること

問題28 屋外タンク貯蔵所の防油堤について、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 防油堤の容量は、タンク容量の50%以上とすること
- (2) 防油堤の高さは0.5メートル以上とすること
- (3) 引火性液体はもちろん非引火性液体の屋外タンクにも防油堤を設けること
- (4) 防油堤は土でつくってもよい
- (5) 堤内の面積は80,000平方メートル以下とすること

保安用品と消火装置

総合防火商社



株式会社

マルナカ

大阪市北区豊島町25 TEL 371-7777(代)

支店 東京・神戸

問題29 ガソリンを移送、取扱う移動タンクについて、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 車両の前後には定められた標識を掲げ、第5種の消火設備(自動車用)を2ヶ以上備えること
- (2) 完成検査済証を備えること
- (3) 移動タンクに注入したり、他のタンクへ入れるときは、移動タンクを完全に絶縁してから行うこと
- (4) 甲種か、乙種4類か、丙種取扱者が乗車すること
- (5) 他のタンクへ注入するときは、移動タンクの原動機を停止させること

問題30 製造所等の構造設備について、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 指定数量の10倍以上の製造所には避雷設備を設けること
- (2) 第4類の一般取扱所の建築物の柱、屋根、床は耐火構造とすること
- (3) 第1種販売取扱所は建築物の1階に設けること
- (4) 第1石油類を収納する屋内タンクの容量は4,000ℓ以下とすること
- (5) 給油取扱所の敷地は、間口10m以上、奥行6m以上とすること

問題31 危険物施設の警報設備として、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 発煙筒
- (2) 拡声装置
- (3) 警鐘
- (4) 非常ベル
- (5) 自動火災報知設備

問題32 次の製造所等のうち、小型消火器のみを設けてよいものはいくつあるか

第2種販売取扱所、屋外タンク貯蔵所、製造所、給油取扱所、地下タンク貯蔵所、屋内貯蔵所、移動タンク貯蔵所

- (1) 1つ
- (2) 2つ
- (3) 3つ
- (4) 4つ
- (5) 5つ

問題33 危険物を車両で運搬する場合の基準で、次のうち誤っているものはどれか

- (1) 第4類は1類を除く他のすべての類の危険物と混載することができる

- (2) 第4類は指定数以上、他の類は指定数量の10倍以上を運搬するときは消火設備を備えること

- (3) 第3類を運搬するときは、雨水の浸透を防止する方法をとること

- (4) 指定数量以上の危険物を運搬するときは、車両の前後に「危」の標識を掲げること

- (5) 運搬容量は収納口を上に向けて積載すること

問題34

A. 第1石油類1キロリットルの消火設備所要単位は□単位である

B. 敷地外の住居から、屋外貯蔵所までの保安距離は□mである。

C. 屋内タンク専用室のしきいの高さは□cm以上である

D. 仮貯蔵の承認される期間は□日である。

上記のA、B、C、Dの□内の数字で、次のうち正しいものはどれか

- (1) B、Dはいずれも10である

- (2) A、Dはいずれも10である

- (3) A、Bはいずれも10である

- (4) A、B、Dはいずれも10である

- (5) B、C、Dはいずれも10である

問題35 指定数量について、次のうち誤っているものはどれか。

- (1) 指定数量とは、消防法別表で品名ごとに定められている。

- (2) 指定数量未満の危険物の貯蔵取扱い基準は、危険物の規制に関する政令で定められている

- (3) 指定数量以上の危険物でも鉄道、航空機で運搬するときは、消防法令の適用をうけない

- (4) 指定数量未満の危険物でも、製造所等で無資格者が取扱う場合は、甲種か乙種取扱者が立会わなければならない。

- (5) 指定数量以上の危険物を10日以内貯蔵するときは、崎防長又は消防署長の承認をうけると仮貯蔵することができる。

安全な社会環境づくりに奉仕する

ハツタ

近代社会の繁栄は
産業・文化の発展に
支えられたものであると同時に
〈防災〉によって支えられたもの。
防災事業が果たす役割とは——
『ハツタの自覚』の原点。

消火器・消火装置の総合メーカー



株式会社 初田製作所

本社・工場

大阪府枚方市招提田近3-5 丁573
電話 0720-56-1281(代)

大阪営業所 電話 06-473-4821-4
堺出張所 電話 0722-21-3444



危険物の範囲に関する運用基準 (大阪市)

= その2 =

危険物の範囲について、大阪市では51. 12. 3付で運用基準を改正した。これは国の基準が明確になるまでの暫定措置で、本紙1月号に続き、又次号にも掲載する。

別記 2

塗料類等の品名について

1 用語の定義

この基準の用語は、次の各号の定めるところによる。

(1) 塗料類等

塗料類、印刷インキ又は絶縁ワニスのに供するもので摂氏20度で液状(ただし、引火点が摂氏70度未満については、摂氏20度をこえ摂氏40度以下の間において液状となるものを含む。)の引火性物品をいう。ただし、法別表の第4類以外の危険物に該当するものを除く。

(2) 塗料類等の原料

乾性油等、ニトロセルローズ、瀝青質、樹脂、顔料、溶剤又は乾燥剤等をいう。

(3) 乾性油等

摂氏20度で液状の高級脂肪酸のグリセリンエステルで、かつ、ヨウ素価(JIS K 5400の試験方法によること。以下同様。)130以上のもの(以下「乾性油」という。)又はヨウ素価100以上130未満のもの(以下「半乾性油」という。)をいう。

なお、乾性油には、キリ油、アマニ油、アサミ油、エノ油、サフラワー油等が該当し、半乾性油には、大豆油、ゴマ油、綿実油等が該当する。

(4) 瀝青類

ブローンアスファルト(JIS K 2207に適合すること。)又はギルソナイト(炭素元素の含有量が80重量

パーセント以上、軟化点が摂氏120度以上及び二硫化炭素への溶解性が99重量パーセント以上のものであること。)をいう。

(5) 樹脂

重量平均分子量が1000以上のもの又は重量平均分子量が1000未満で熱、酸素等により重合若しくは縮合して高分子化合物となり得るものをいう。ただし、乾性油等、ニトロセルローズ及び瀝青質に該当するものは除く。

なお、樹脂は天然樹脂(コパル、セラック、ダンマル、ロジンのほか、自然に樹木若しくは虫類から分泌され、又は一度生物から分泌されたものが地中に埋もれ半化石化して生じたもの等、天然に得られる樹脂。)加工樹脂(アセチルセルローズ等、天然樹脂に化学構造の変化を与えて得られる樹脂。)及び合成樹脂(天然樹脂及び加工樹脂以外の樹脂。)に分類する。

(6) アルキド樹脂

フタル酸、グリセリンを主体とするポリエステル樹脂をいう。

なお、通常は乾性油等又はその脂肪酸等を加えた変性アルキド樹脂が用いられる。

(7) 顔料

溶剤又は水に難溶の粉末で、着色顔料(着色のために用いるもの。)、体質顔料(塗料の性質を改善するために用いるもの。)又は防錆顔料(さび止めに用いるもの。)をいう。

(8) 溶剤

乾性油等、ニトロセルローズ、瀝青質若しくは樹脂を溶解、膨潤若しくは懸濁させるもの又は塗料を希釈するもので、摂氏20度で液状の化合物又はそれらの混合物をいう。ただし、水を除く。

(9) 乾燥剤等

塗料類等から乾性油等、ニトロセルローズ、瀝青質、

あらゆる消防設備・設計・施工

非常扉の自動開錠装置
防火扉・危険物貯蔵所等の自動閉鎖装置 } YMオートアンロック
泡・ガス・エアーム消火装置

YM式オートアンロック西日本総括
齊田式救助袋 近畿地区
日本ドライケミカル(株)
ヤマト消火器(株) } 代理店

株式会社
三和商会
TEL 06 (443) 2456

樹脂、顔料及び溶剤を除いた残りの成分をいう。たとえば、乾燥剤、可塑性、水等が該当する。

(10) 乾燥剤

乾性油等又は樹脂に添加して、酸化又は重合を促進して塗膜形成の時間を短縮することを目的とするナフテン酸塩、高級脂肪酸塩等の金属化合物をいう。

(11) 調合塗料

ア 1号調合塗料

乾性油、樹脂（アルキド樹脂以外のものに限る。）、顔料及び溶剤（20重量パーセント未満のものに限る。）から成るものをいう。

イ 2号調合塗料

乾性油（15重量パーセント以上のものに限る。）、アルキド樹脂、顔料及び溶剤（40重量パーセント未満のものに限る。）から成るものをいう。

(12) さび止塗料

金属表面の腐食を抑制し、さびの発生を防ぐ作用を有する塗料をいう。

(13) 船底塗料

船底の貝殻、海そう等の付着を防ぎ、かつ、その腐食を防止する塗料をいう。

(14) 水性塗料

水に可溶性若しくは不溶性の樹脂を水に溶解若しくは分散させたもの、又はこれに顔料を分散させたものをいう。

2 塗料類等の品名

(1) 規則別表第1に定める品目は、塗料類等のうちで、別表に掲げる塗料類等の原料の各項目について、各数値の含有量（重量パーセントを有し、かつ、別表備考に該当する事項に適合するものをいう。

(2) 油性下地塗料のうちオイルパテに該当するもの及び硝化縮下地塗料のうちラッカーパテに該当するもの並

びに絶縁ワニスのうちで JIS C 2352 及び JIS C 2356 に該当するものは非危険物とする。

(8) 調合塗料は非危険物とする。

(4) 前各号に該当しない塗料類等については、法別表備考第2号及び第3号により、特殊引火物又は石油類とする。ただし、溶剤の引火点、樹脂の種類等を総合的に検討して判断することがある。

3 留意事項

(1) さび止塗料及び船底塗料のうち、調合塗料に該当するものは非危険物となる。

(2) 引火点を有する水性塗料については、大部分が規則別表第1の品目のいずれかに該当する。

(次号へ続く)

<お知らせ> この関連記事は本紙第277号、第278号、第279号に分けて掲載します。

なお参考資料も掲載したパンフレットは1部100円で大阪市協会（531-5910）にあります。

<もぎ問題の解答>

基礎物理化学

- 1-(1), 2-(5), 3-(1), 4-(3), 5-(2)
6-(3), 7-(2), 8-(5), 9-(2), 10-(5)

各論

- 11-(3), 12-(2), 13-(4), 14-(3), 15-(1)
16-(4), 17-(4), 18-(2), 19-(2), 20-(5)

法令

- 21-(4), 22-(4), 23-(5), 24-(2), 25-(2)
26-(4), 27-(3), 28-(1), 29-(3), 30-(2)
31-(1), 32-(3), 33-(2), 34-(1), 35-(2)

Advertisement for Yamato Fire Equipment Co., Ltd. featuring the slogan '信頼のヤマト' (Trustworthy Yamato) and listing various fire safety products like extinguishers, alarm systems, and emergency lighting. Includes a photo of a fire extinguisher and contact information for their Osaka office.



危険物施設の事故

◇ 製造所、一般取扱所

■焼入油槽で発火

49. 1. 31 (木) 午前4時6分頃、千葉県給橋市N社一般取扱所から出火。

当焼入油槽には、攪拌機を設備してあるが、攪拌機の齒車が破損したまま570°Cの塩浴槽から加熱された部品をホイストで吊り上げ焼入油槽(焼入油Q-5E、引火点185°C、燃焼点200°C)へ浸漬したところ、部品周囲の油面に着火し、部品をゆさぶりながら入れていったが次第に拡大し油槽液面全体が炎に包まれた。

通常は、部品を浸漬する際に油面の一部が着火しても攪拌機で油槽内を攪拌冷却するためにすぐ消えるが、攪拌機が故障していたため油槽内の油を冷却することができず炎上拡大した。

作業員2名が第4種粉末消火器1基と第5種粉末消火器1本を使用して延焼防止を行ったが消火することはできなかった。

■アセチレンガス工場爆発

49. 1. 23 (水) 午後12時20分頃、神奈川県茅ヶ崎市T社一般取扱所から出火。

当事業所はカーバイトよりアセチレンガスを製造しポンベに充填する工場であり、ガス発生器(湿式)にカーバイトを入れ水と反応させアセチレンガスを発生しガスタンク(50㎡)に貯蔵し、清浄器に通じて98.5%になったアセチレンガスを圧縮し乾燥器を通して充填機にてポンベに充填するものであり、ガスをポンベに充填する際ポンベ内へ(アセトン(第1石油類)を注入する行程がガス充填)。隣接してあり当施設が一般取扱所になっている。(一日のアセトン取扱量 400ℓ)

午前4時よりポンベ充填作業を開始し(充填時間10時間、14時充填終了予定)、発災当時昼休みのため1名の現場責任者が監視していたが、12時22分突然充填中のポンベよりガスが噴出し引火したので消火した所、5分後に充填室にガスが充満し2次爆発が起こった。

■電動ポンプでショート

49. 1. 25 (月) 午前7時1分頃、横浜市K社一般取扱所から出火。

灯油詰替専用一般取扱所内で小型トラックのバッテリーを使用して電動ポンプにてドラム缶内の灯油を詰替えていた(トラック荷台上で)。同時に同小型トラックのガソリンタンクに20ℓポリタンクでガソリンを給油していた所、バッテリーの接触が悪く電動ポンプの回転が悪くなったのでガソリンの給油を中止しポリタンクを持ってバッテリーの配線接触部分の点検を行ったところ、接続部よりショートし手袋にしみていたガソリンに引火し、おどろいた作業員がガソリンの入ったポリタンクをたおしたので流出したガソリンに引火した。

消防機器の
トップ・メーカー

消防自動車から消火器まで

MYJ 森田ポンプ株式会社

本社 大阪市生野区小路東5-5-20
☎ 06 (751) 1 3 5 1 (大代表)